

## 業界初の「モアレカットフィルター」機能を開発

～「スーパージェナスキャン8060」がさらに進化！～

～CTP・デジタル印刷ワークフローを強化するソリューション～

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区/社長：石田 明)は、カラー原稿のスキャン入力において発生するモアレを自動的に低減する「モアレカットフィルター」を開発し、「スーパージェナスキャン8060 MarkII」のオプションとして1999年12月中旬に発売します。なお、本オプションは、9月20日から24日までの間、東京ビッグサイトで開催される国際グラフィックアーツ総合機材展「IGAS'99」に出品します。

「モアレカットフィルター」は、プロ用スキャナーに搭載される機能としては業界初で、画像処理技術のノウハウを駆使した当社独自のアルゴリズムを用いて開発したものです。例えばタータンチェックやストライプの模様が入った生地やエアコンの空気噴きだし口の格子パターンなどのカラー原稿をスキャナーで入力する時、モアレが発生しそうなパターンの画像部分を自動抽出、その部分のみにモアレ低減効果を自動的に発揮します。

スキャナー入力時の「モアレ」とは、入力原稿にある繰り返しパターンとスキャン走査線との間に起こる干渉ジマの一種で、シャープネスを強くすればするほど強調され、例えば円形の周期的な色のにじみとなって印刷物に現れます。しかも、色校正や最終の印刷物で発見される場合がほとんどで、原稿の再スキャンを要するなど、モアレはデジタル化が進展する製版工程のなかでも大きな課題となっています。

いままでは、モアレが発生しそうな原稿をスキャンする際には、熟練スキャナーオペレーターがカラー原稿のピントをばかしてモアレを強調するシャープネスを落としたり、原稿のスキャン角度を工夫したり、あるいは画像処理ソフトで加工したりするなど、テクニックと時間を掛けてモアレ低減に対応してきました。

この新機能は、当社が1996年9月に発売したカラースキャナーの最上位機種「スーパージェナスキャン8060」の後継機「スーパージェナスキャン8060MarkII」(1999年11月中旬発売)にオプション搭載する予定。より簡単でよりスキルレスなセットアップで自動処理し、やっかいなカラー原稿の入力作業の手間やタイムロス在未だに防ぎます。「モアレカットフィルター」は、モアレ発生の中間チェックが難しいCTPやデジタル印刷のワークフローの強化に最適なソリューションです。

【発売時期】 1999年12月中旬

【参考価格】 300万円(スーパージェナスキャン8060 MarkII用オプション)